

米代川水系流域治水ニュース

発行者：国土交通省 東北地方整備局 能代河川国道事務所
〒016-0121 能代市鰯淵字一本柳97-1 TEL 0185-70-1001 (代)
<http://www.thr.mlit.go.jp/noshiro/> E-mail thr-noshiro01@mlit.go.jp



～気候変動に伴う水害リスクの上昇に対応～

米代川流域治水プロジェクト (Ver2.0) を策定

米代川流域のあらゆる関係者が一体となって取り組む治水対策をまとめた「流域治水プロジェクト」は、令和2年度に初版が策定され、ハード・ソフト一体となった取組が実施されてきました。この度、**気候変動に伴う水害リスクの増大に対応**していくため、**同プロジェクトを大幅に更新**。既存の対策を更に強化しつつ、新たな取り組みを追加し、将来にわたる米代川流域の治水力向上を目指していきます。

気候変動による水害リスク

想定浸水域

※米代川(国直轄区間)におけるシミュレーション

現在のプロジェクト
戦後最大洪水時の雨量

戦後最大洪水時の雨量
× 1.1倍



世界的な気候変動により**気温が2℃上昇**した場合、**降雨量が約1.1倍**になり、この時**河川を流れる水量は約1.2倍**に増加すると試算されています。

国が管理する米代川における、戦後最大洪水と同規模の降雨を再現したシミュレーションの結果、現在の気候条件では浸水世帯を0世帯に抑えることができますが、**気候変動により降雨量が増加した場合、約3,500世帯が浸水すると予想されています。**

凡例	浸水深
黄色	0.5m未満
緑	0.5m～1.0未満
青	1.0m～2.0未満
水色	2.5m～5.0未満
紫	5.0m以上

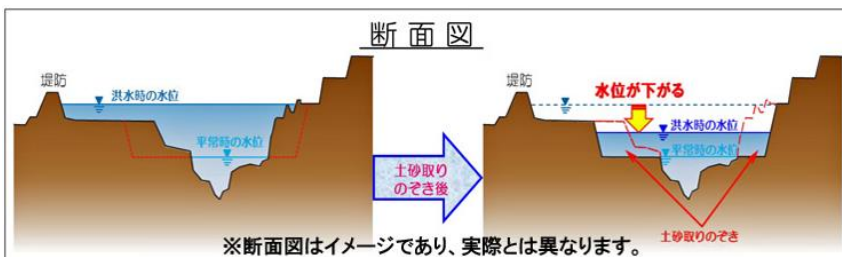
そのため、更新後のプロジェクトには、**更新前の3倍となる河道掘削等**、気候変動を考慮した状況下においても現在の治水安全度を維持するための対策が盛り込まれています。

現在の浸水想定 **0世帯**

気候変動により **約3,500世帯**

更新後の対策により0世帯へ

【河道掘削のイメージ】



流域治水プロジェクト (Ver2.0) はこちら



流域治水プロジェクト (Ver2.0) の紹介

◆ 雨水貯留浸透施設

敷地や貯留タンクを大雨の受け皿とすることで、近隣の浸水被害を防ぎます。また、下流河川の負担を軽減します。

【令和4年豪雨時】



【平時の様子】



大館市：工業団地の例

◆ 森林の整備及び保全

森林を適切に管理することで、山の保水力が維持されるほか、土砂の流出を防ぐ効果が期待されます。また、CO2を吸収することで地球温暖化抑制にも貢献します。

【植栽】



【下刈】



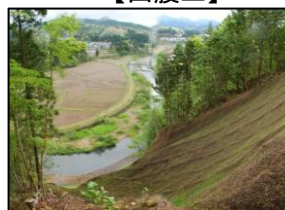
【間伐】



【溪間工】



【山腹工】



【地すべり防止工】



◆ 敷地の嵩上げ支援



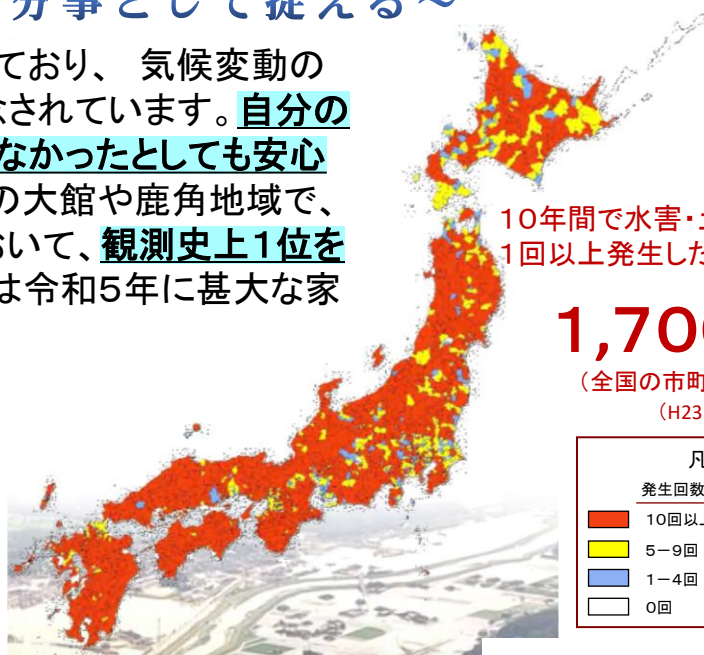
盛土等により敷地を高くする「嵩上げ」を支援し、低い土地の浸水被害を未然に防ぎます。

水害は他人事ではありません

～ 流域治水を自分事として捉える ～

水害は全国ほぼ全ての市町村で発生しており、気候変動の影響により発生頻度や規模の増加が懸念されています。**自分の住んでいる地域では今まで大きな水害がなかったとしても安心はできません。**令和4年には米代川上流の大館や鹿角地域で、令和5年には米代川下流の能代地域において、**観測史上1位を記録する大雨を観測**したほか、秋田市では令和5年に甚大な家屋浸水被害が発生しました。

また、水害は直接的な人的被害、住宅被害だけでなく、**間接的被害**をもたらします。公共交通機関や道路、橋といった交通インフラが被害を受けることによる**物流の遅延**や、**医療機関、教育機関の機能低下**など、日常生活に大きな影響を及ぼします。



10年間で水害・土砂災害が1回以上発生した市町村数

1,700

(全国の市町村数1,741)
(H23～R2の集計)

凡例	
発生回数	市町村数
10回以上	:1,005
5-9回	:427
1-4回	:268
0回	:41



【避難所開設訓練】



【防災士による講演】

流域治水の取り組みには防災訓練や防災教育といったソフト面の対策も含まれており、プロジェクトにも盛り込まれています。**流域治水を「自分事」と捉え、日頃から水害に備えましょう。**

自宅周辺の浸水リスクは？

ハザードマップで確認

